

ECO アンケート 実施報告



照明家がエコを考える。 今、我々にできる活動とは？

昨年10月号に掲載し、当協会のホームページでも皆さまにご協力いただいている『照明家がエコを考える。今、我々にできる活動とは?』と題して実施しておりますECOアンケート。そもそも、我々照明業界は「最もエコに遠い所に位置しているのではないか?」という疑問から、日常的にエネルギーを光に変え、湯水のごとく使っているこの職場でできるエコとはどんなものか? という事について、広く意見を求めようと始まったアンケートです。我々照明家ができることとは何か? 照明という分野ではどのように地球環境問題 (ECO) に貢献することができるのか? 幅広くいただいた意見を、ここでご報告します。

【実施期間】 平成21年10月～平成22年1月31日 およそ4ヶ月間
【総回答数】 42通 (1月31日現在)

Q1
あなたの年齢は?

10代→0	50代→9
20代→5	60代→2
30代→13	70代以上→1
40代→12	

Q2
性別は?

男性→33
女性→9

Q3
舞台・テレビ
主にどちらの
お仕事が多いですか?

舞台→39
テレビ→3

Q4
地球環境問題 (ECO) に
関心がありますか?

ある→41
ない→1

Q5
照明家として
この問題に対し
取り組む
必要性を感じますか?

感じる→40
感じない→2

Q6
ご家庭や身の回りで
実際に何かの活動に
取り組んでいますか?

取り組んでいる→29
取り組んでいない→13

Q7
ご自身の職場または
仕事先 (各施設や劇場など) で
行っている、
あるいは知っている
ECO活動があれば
お教えてください。

具体的な取組みとは…

- ゴミの分別・節電・室内の温度調整・リサイクル・電球交換・ECO製品への買い替え・太陽光発電・公共交通の利用・充電池の利用・緑化・節水など。
- ゴミの分別・節電 (作業等を含む)・室内の温度調整・リサイクル・電球交換・充電池の利用。
- 緑化・ECOを意識したデザインを創るなど。
- スポットライトの低ワット化たとえば1,000wの器具に750wの球を入れるなど。
- ハロゲン電球から蛍光灯化 (ニューススタジオ)。
屋外照射照明にLEDを採用しました。
- 事務室の蛍光灯器具 (2灯式 24台) に、個切りスイッチを付けた。
- 施設用電球 (主に直管蛍光灯) を、メーカーによるリサイクルシステムに換えました。

Q8

照明という仕事を通して
どのようなECO活動が
必要だと思いますか？

- LEDを普及させ照度を上げるなど、積極的に開発し導入するとよい。
- 点灯時間を短縮できる様に努力する。
- 設備投資が必要ではあるが、省電力の作業灯を設備することで省エネになる。
- 我々照明担当者、個人個人が認識して作業する。
- 全体的に明るすぎるデザインの抑制？ LED主体の照明デザイン作り。
- 200v電源の使用による高効率化。サイリスタ調光から正弦波調光による高効率化。
- 植林など間接的な貢献。会館の太陽光発電への取り組みや、省エネ機材の開発への推奨。
- プラグ・コネクタ類のリサイクル。

Q9

照明家協会全体で
取り組んでいける
あなたのアイデアを
教えてください。

- 協会誌をインターネット上で閲覧できると、紙や印刷の必要がなくなるのでは？
- 器具・電球の各メーカーが積極的に開発に取り組めるよう、アイデアの提供が必要では？
- 現在の設備でそのまま流用でき、ハロゲン電球と同じ性能のLED電球の開発。
- 既存のボーダーライトとの住み分けをしたうえで、作業灯の蛍光灯化またはLED化。
- 設備や機材の更新年の確定とその普及。ちょうど良い照度の設定情報の作成とその奨励。
- 環境改善（ECO活動）などに取り組んでいる、会館・劇場等の紹介と情報の共有。
- エコの取り組みの紹介やシンポジウム、省エネ機材の推奨など。
- グリーン電力の活用。
- 小電力発電（自然エネルギーの活用）など、各支部ごとに地域の実情に合わせて取り組むこと。

Q10

今後必要と思われる
取組みは、
どんなものであると
お考えですか？

- デザインと省エネを敵対させないこと。電気使用量5%削減。
- 演出照明を行う以上、ECOとは相容れない部分が必ずあると思うが、最新の技術で省電力化に繋がるものが多く出てきており、それを取り入れる努力（メーカー・ユーザーとも）が必要。
- LED電球への転換。消費電力の低減。省エネルギーで光量のある器具の開発。
- LEDスポットの使用レポート。植林事業など間接的な貢献事業を検討する。
- 環境問題の理解と間違った考えを広げないこと。
- モデル施設を造って世間にアピールする。

Q11

その他ご意見があれば
お書きください。

- 本格的に環境の事を考えるなら、この業界は一番先に無くなってしまおうのではという危機感を持つべきである。ECOに無関心な照明家が多すぎるのではないだろうか。みんな5%削減を努力目標に、最高最良のプランニングができる技術と思考力を養うべきだと思う。芸能文化を伝承する照明業界でのECOはとても難しい。芸術を盾にECOを無視することはできない。また、社会全体としての流れや将来的な物を見据えれば、推進していく必要性は感じられる。業界全体でもっと積極的にアピールするべきである。地球規模で考えれば、アメリカや中国のような大国が環境汚染に対する意識改革ができなければ何をやっても徒労かもしれない。フェーダー1本あげたら、どれだけの木を切ることになるのでしょうか？ どれだけオゾン層を破壊することになるのでしょうか？ いったい何度地球の温度が上がることになるのでしょうか？ 間伐材を無駄にしないように作られている割り箸を使い捨てだから悪者だとして、自然に還らない素材のマイ箸を持ち歩くのが「環境に優しい」ことなのだろうか？ 考え違いをしてはいけない。照明家として自身のプランを考える時や明かり作り中に、ECOを考えるのは難しい。一個人として普段の生活でのECO活動に積極的に参加したい。（多くの意見を一文にまとめさせていただきました。）

まとめ

ホームページとFAXでの回答をお願いし、回収した42通という数字は決して多い数字ではありません。アンケートの実施方法に問題があるのかも知れませんが、業界全体としてECOに対する意識が数に表れているのではないのでしょうか。

今回ご回答いただいた方々の中には、大変意識が高く貴重な意見をお持ちの方もいらっしゃいました。アンケートでいただいた貴重な意見をアンケートだけで終わることがないように、今後ECO活動へ実践できるように提案し、その活動が協会雑誌やホームページで報告できればと思います。

アンケートへのご協力いただきました皆さまありがとうございました。誌面をお借りして御礼申し上げます。（広報委員会）